

令和3年12月20日	資料3-6
第16回健康日本21(第二次)推進専門委員会	瀧本委員提出資料

生活習慣等に関する健康格差の状況

体格及び生活習慣に関する都道府県格差の状況

1. 集計の目的

健康日本 21(第二次)の目標項目に関連する体格及び生活習慣(データソースが国民健康・栄養調査であるもの)について、健康日本 21(第二次)の実施期間中に都道府県格差が縮小又は拡大したかを評価することを目的に特別集計を行った。

2. 集計の対象年度、対象項目、対象者

国民健康・栄養調査では、体格及び生活習慣に関する地域格差を把握する目的で、平成 24 年及び平成 28 年に、1 道府県あたり 10 地区(東京都のみ 15 地区)を調査対象とした拡大調査を行っている。本集計では拡大調査を初めて実施した平成 24 年をベースラインデータとした。令和2年に実施予定であった拡大調査により、都道府県別の状況を評価する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年調査を実施できなかったため、平成 29～令和元年のプールデータを直近値として使用した。

集計対象者は、各年度の集計対象項目の調査に参加した者とした。集計対象は、国民健康・栄養調査をモニタリングに使用している健康日本 21(第二次)目標項目のうち、以下の除外基準に該当しないものとした。①プールする期間で該当項目が調査されていない年がある又は調査法が変更された、②調査参加者の少ない調査項目であり、かつ性・年齢区別に集計が必要、③プールデータと平成 28 年の都道府県別集計値の順位相関が平成 24 年と 28 年のそれより弱い又はプールデータと平成 28 年の間で順位四分位が2カテゴリ以上ずれた都道府県の数が平成 24 年と 28 年の間のそれと比べて多い。これらより集計対象は、BMI の平均値、食塩摂取量の平均値、野菜摂取量の平均値、現在喫煙している者の割合(喫煙率)とした。他項目の除外理由は表1にまとめた。

集計対象年齢は、健康日本 21(第二次)の目標項目に準じ、BMI は男性で 20～69 歳、女性で 40～69 歳、食塩摂取量、野菜摂取量、喫煙率は 20 歳以上とした。BMI は男女別に、食塩摂取量、野菜摂取量及び喫煙率は健康日本 21(第二次)の目標値に男女差がないため、男女総数で集計を行った。

3. 集計方法

都道府県ごと及び調査実施年ごとの平均年齢の違いを考慮するため、平成 24 年の各集計項目の対象者平均年齢に合わせる年齢調整を行い、都道府県別の平均値とその 95%信頼区間を算出した。都道府県別平均値を示すため、都道府県別の平均値データを高い方から低い方に4区分に分け、色分けをした棒グラフで 95%信頼区間とともに示した。

各集計項目の平均値が平成 24 年と比べて平成 29～令和元年に改善傾向にあるかどうかを示すため、平成 24 年値を横軸、平成 29～令和元年値を縦軸にプロットした。都道府県格差は、

都道府県別平均値(推定値)の分布幅により定量的に表現できると考えられる。しかし、都道府県別平均値(推定値)をそのまま用いると、推定誤差の影響により都道府県格差が過大評価されるおそれがある。特に、平成 29～令和元年値は推定誤差が大きいため都道府県格差が過大評価されやすいので解釈には注意が必要である。そこで、都道府県別年齢調整平均値(推定値)から誤差分散を補正した値の分布を推定し、その補正值の 47 都道府県の差を意味する標準偏差を都道府県間格差の指標とした。都道府県格差の指標の変化を視覚的に把握しやすいよう、X 軸を都道府県順位の正規スコア、Y 軸を都道府県別補正值として正規プロットで図示した。都道府県格差が統計学的に有意に縮小又は拡大したかは、都道府県差の標準偏差の2時点間の差をモンテカルロ法による片側検定(並べ替え検定)を用いて評価した。統計手法の詳細は、平成 28 年及び平成 30 年の厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)分担研究「健康寿命の地域格差の算定・評価に関する研究」を参照のこと。

表 1. 健康日本 21(第二次)の目標項目のうち、集計対象としなかった項目の除外理由

集計対象からの除外理由	該当項目
① 拡大調査年又はプールする期間において、該当項目が調査されていない年がある又は調査法が変更された。	収縮期血圧の平均値(40-89 歳、性別) 睡眠による休養を十分とれていない者の割合(20 歳以上、総数) 受動喫煙の機会を有する者の割合(20 歳以上、総数) 糖尿病治療継続者の割合(20 歳以上、総数)
② 調査参加者の少ない調査項目であり、かつ性・年齢区別に集計が必要。	20 歳代女性のやせの者の割合 歩数の平均値(65 歳以上、性別) 運動習慣者の割合(20-64 歳、65 歳以上、性別) 総コレステロール 240mg/dl 以上の者の割合(40-79 歳、性別) LDL-コレステロール 160mg/dl 以上の者の割合(40-79 歳、性別)
③ プールデータと平成 28 年の都道府県別集計値の順位相関が平成 24 年と 28 年のそれより弱い。 又はプールデータと平成 28 年間で順位四分位が2カテゴリ以上ずれた都道府県の数平成 24 年と 28 年間のそれと比べて多い。	歩数の平均値(20-64 歳、性別) 低栄養傾向(BMI20 以下)の高齢者の割合(65 歳以上、総数) 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合(20 歳以上、性別) 肥満者の割合(20-60 歳代男性、40-60 歳代女性) 果物摂取量が 100g 未満の者の割合(20 歳以上、総数)

※本集計は、「健康日本 21(第二次)分析評価事業」(受託者:国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所)において実施

1-1. 男性のBMIの年齢調整平均値

各都道府県の年齢調整平均値は、図 1-1、1-2 の通り。

図 1-1. BMIの年齢調整平均値(平成 24 年、20-69 歳男性)

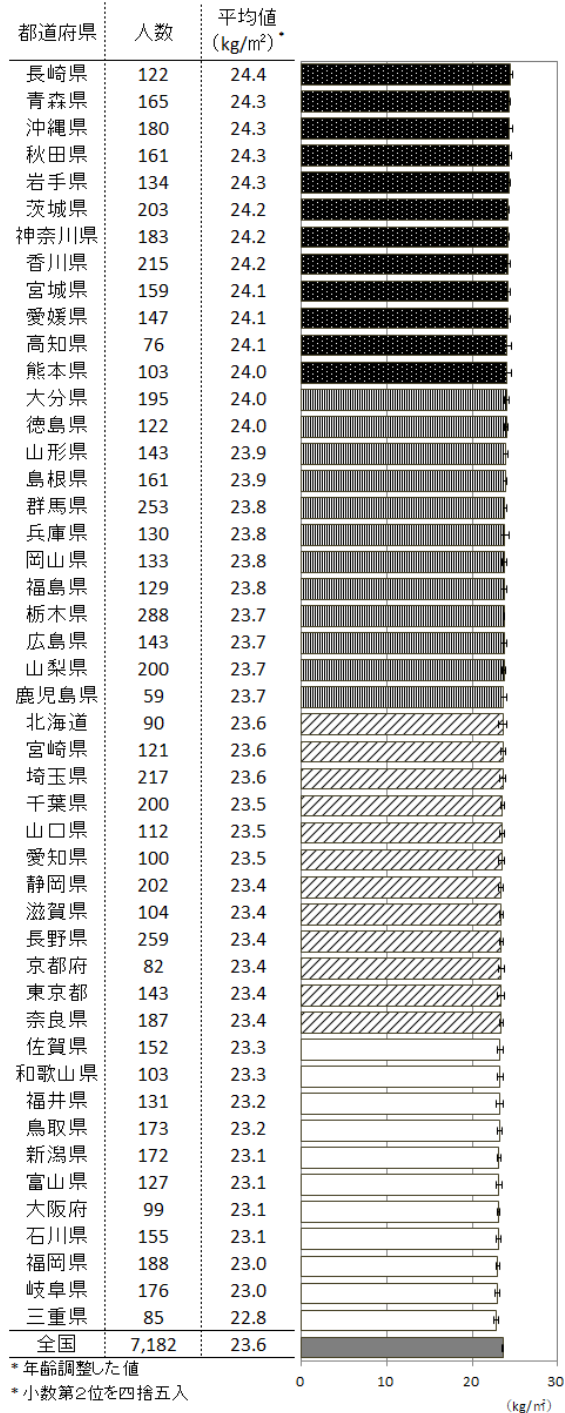
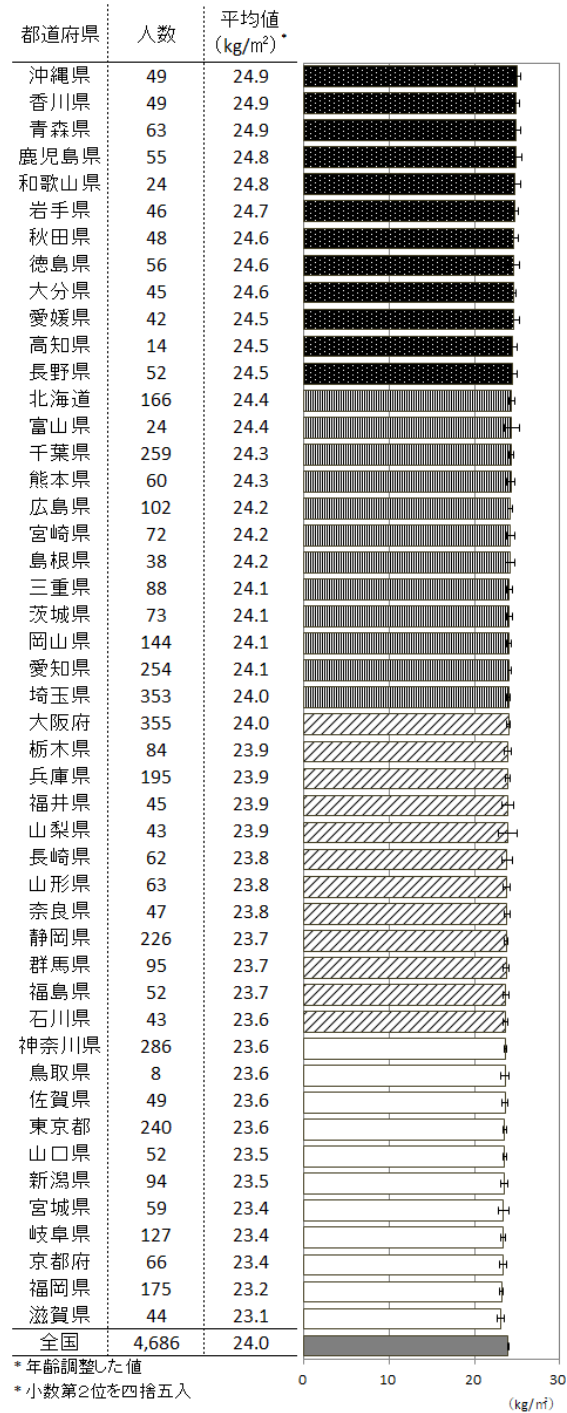


図 1-2. BMIの年齢調整平均値(平成 29-令和元 年、20-69 歳男性)



※平成 24 年の集計対象者の平均年齢 48 歳を用いて年齢調整を行った。図の横軸誤差範囲は、平均値の 95%信頼区間を示した。都道府県別データを高い方から低い方に4区分に分け、色分けをして示した。なお、差異がみられる小数点以下の桁数まで算出し、値が高い方から並べた。

1-2. 男性の BMI の推移

平成 24 年と比べて、平成 29～令和元年の年齢調整平均値は、全国的に増加しており、改善傾向は見られなかった。また補正值は低順位の都道府県ほど増加する傾向にあった。都道府県差の標準偏差は平成 24 年で 0.29、平成 29～令和元年で 0.15 であり、2時点間で有意な変化はなかった(P=0.12)。

図 1-3. BMI の年齢調整平均値の推移(20-69 歳男性)

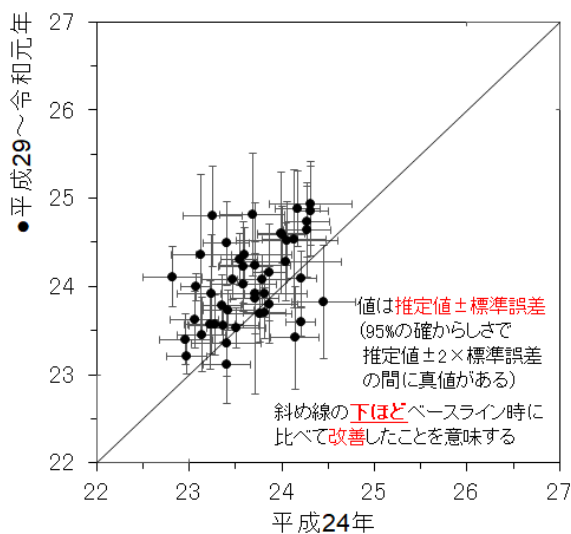
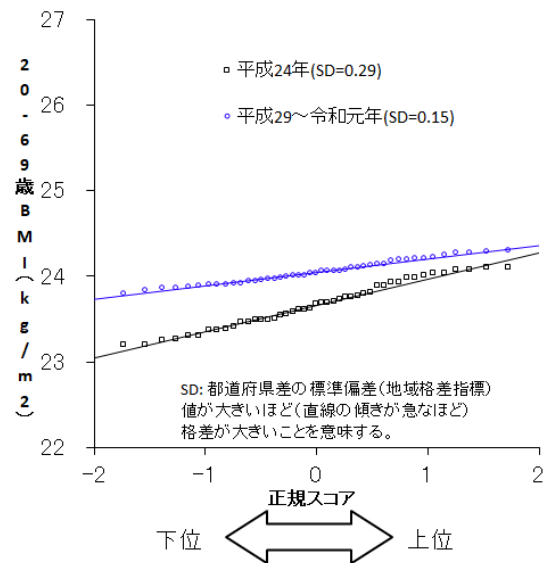


図 1-4. BMI の分布の推移(20-69 歳男性)

※誤差分散を補正した値であり年齢調整平均値とは異なる。



2-1. 女性のBMIの年齢調整平均値

各都道府県の年齢調整平均値は、図 2-1、2-2 の通り。

図 2-1. BMIの年齢調整平均値(平成 24 年、40-69 歳女性)

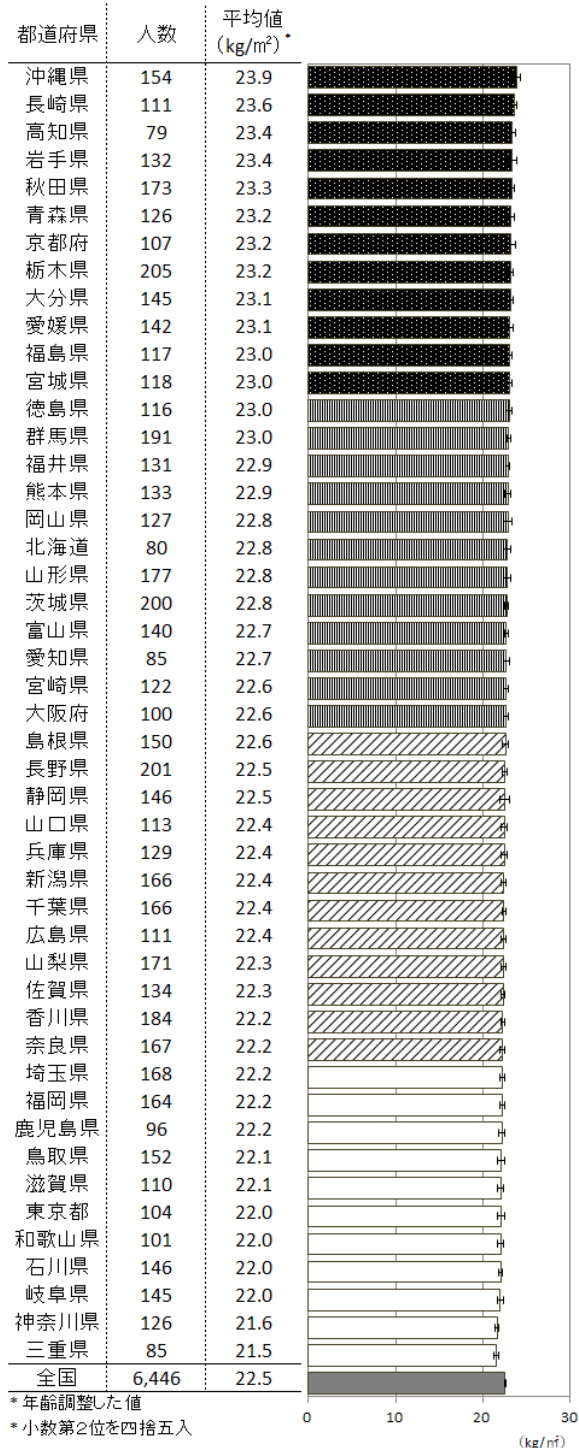
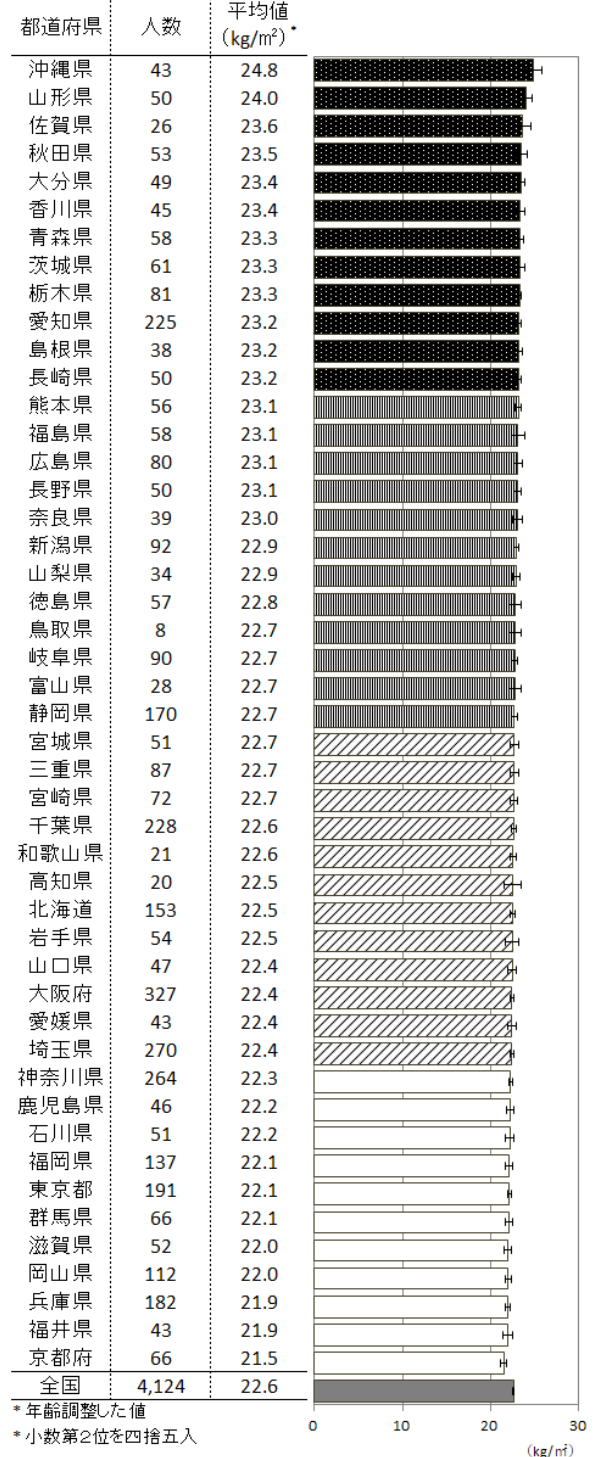


図 2-2. BMIの年齢調整平均値(平成 29-令和元 年、40-69 歳女性)



※平成 24 年の集計対象者の平均年齢 56 歳を用いて年齢調整を行った。図の横軸誤差範囲は、平均値の 95%信頼区間を示した。都道府県別データを高い方から低い方に4区分に分け、色分けをして示した。なお、差異がみられる小数点以下の桁数まで算出し、値が高い方から並べた。

2-2. 女性の BMI の推移

平成 24 年と比べて、平成 29～令和元年の年齢調整平均値は、大きな増減はなく、改善傾向は見られなかった。低順位と高順位の都道府県で補正値の推移に違いがなく、都道府県差の標準偏差は平成 24 年で 0.38、平成 29～令和元年で 0.33 であり、2 時点間で有意な変化はなかった(P=0.33)。

図 2-3. BMI の年齢調整平均値の推移(40-69 歳女性)

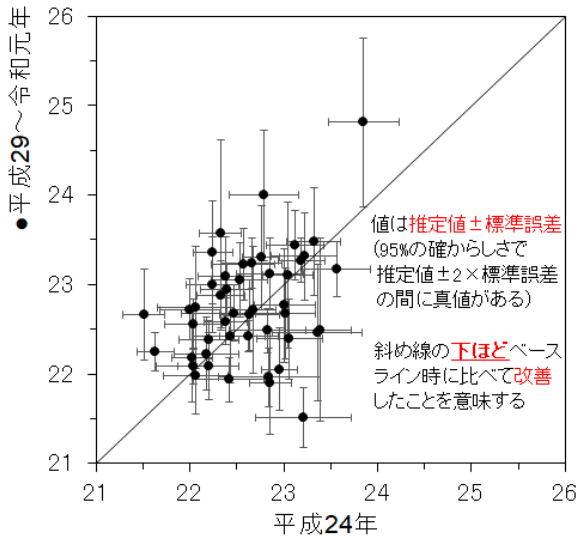
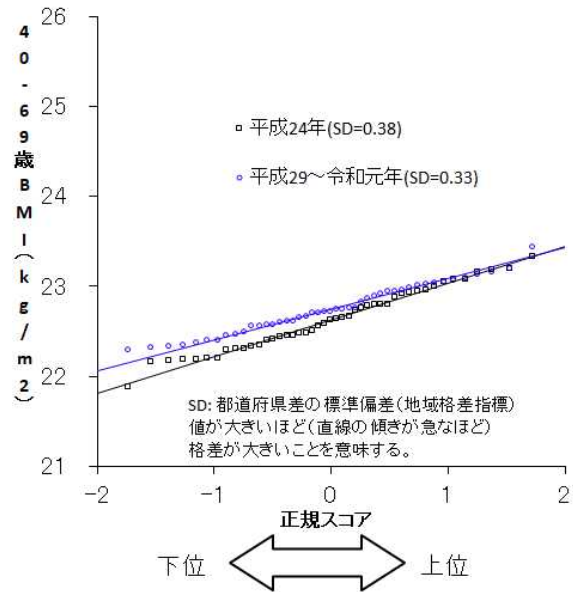


図 2-4. BMI の分布の推移(40-69 歳女性)

※誤差分散を補正した値であり年齢調整平均値とは異なる。



3-1. 食塩摂取量の年齢調整平均値

各都道府県の年齢調整平均値は、図 3-1、3-2 の通り。

図 3-1. 食塩摂取量の年齢調整平均値(平成 24 年、20 歳以上・男女計)

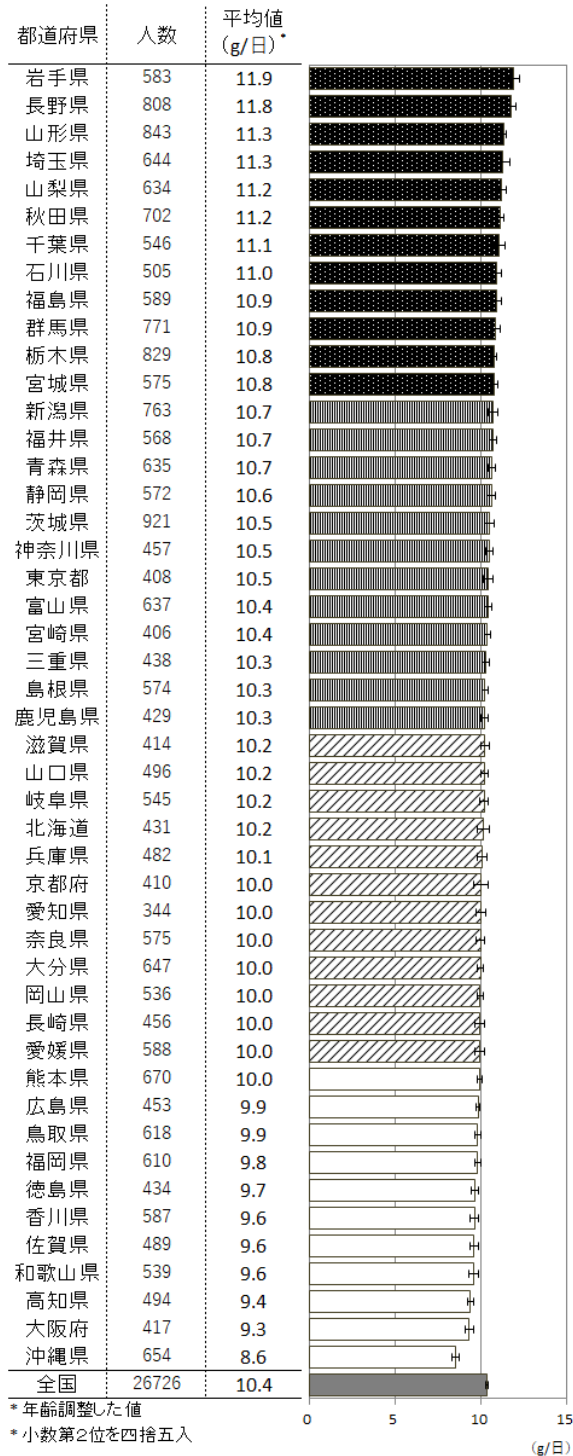
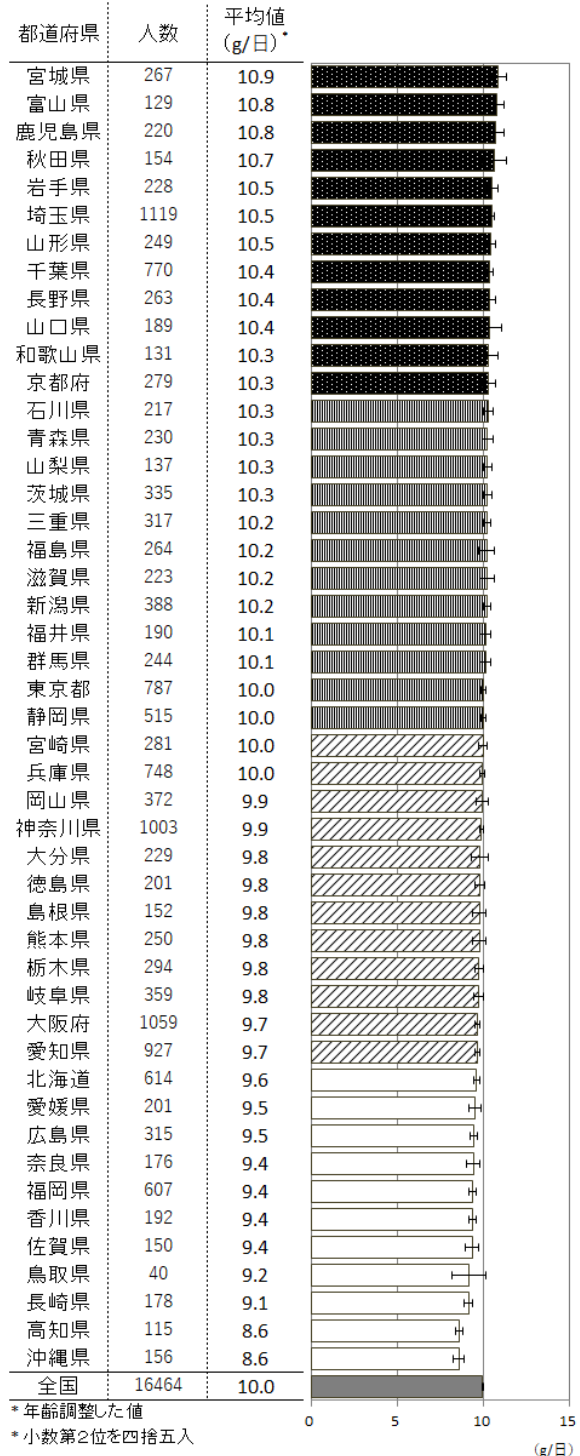


図 3-2. 食塩摂取量の年齢調整平均値(平成 29-令和元年、20 歳以上・男女計)



※平成 24 年の集計対象者の平均年齢 56 歳を用いて年齢調整を行った。図の横軸誤差範囲は、平均値の 95%信頼区間を示した。都道府県別データを高い方から低い方に4区分に分け、色分けをして示した。なお、差異がみられる小数点以下の桁数まで算出し、値が高い方から並べた。

3-2. 食塩摂取量の推移

平成 24 年と比べて、平成 29～令和元年の年齢調整平均値は、全国的に減少し、改善傾向が見られた。補正値は高順位 of 都道府県ほど減少する傾向にあった。都道府県差の標準偏差は平成 24 年で 0.60、平成 29～令和元年で 0.37 であり、2 時点間で有意に変化した ($P < 0.01$)。以上より、食塩摂取量は全体的に改善し、また都道府県格差も縮小したと言える。

図 3-3. 食塩摂取量の年齢調整平均値の推移(20 歳以上・男女計)

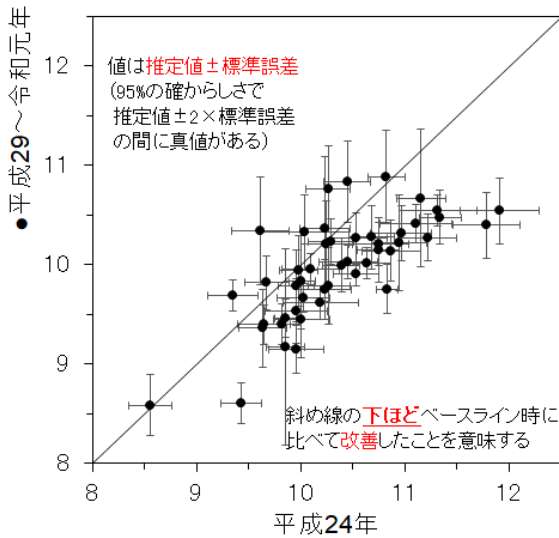
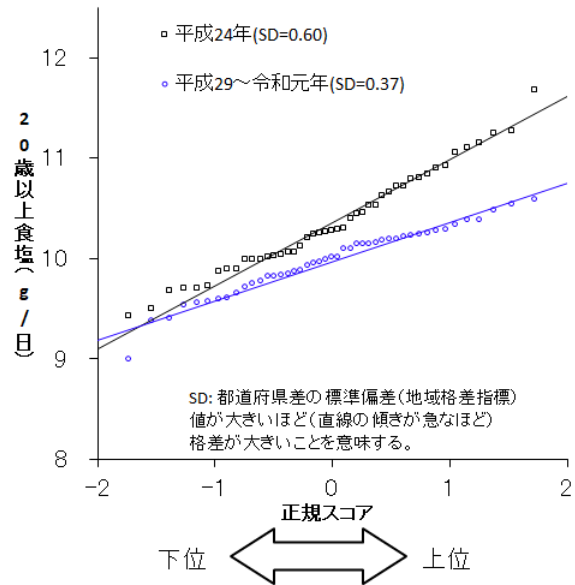


図 3-4. 食塩摂取量の分布の推移(20 歳以上・男女計)

※誤差分散を補正した値であり年齢調整平均値とは異なる。



4-1. 野菜摂取量の年齢調整平均値

各都道府県の年齢調整平均値は、図 4-1、4-2 の通り。

図 4-1. 野菜摂取量の年齢調整平均値(平成 24 年、20 歳以上・男女計)

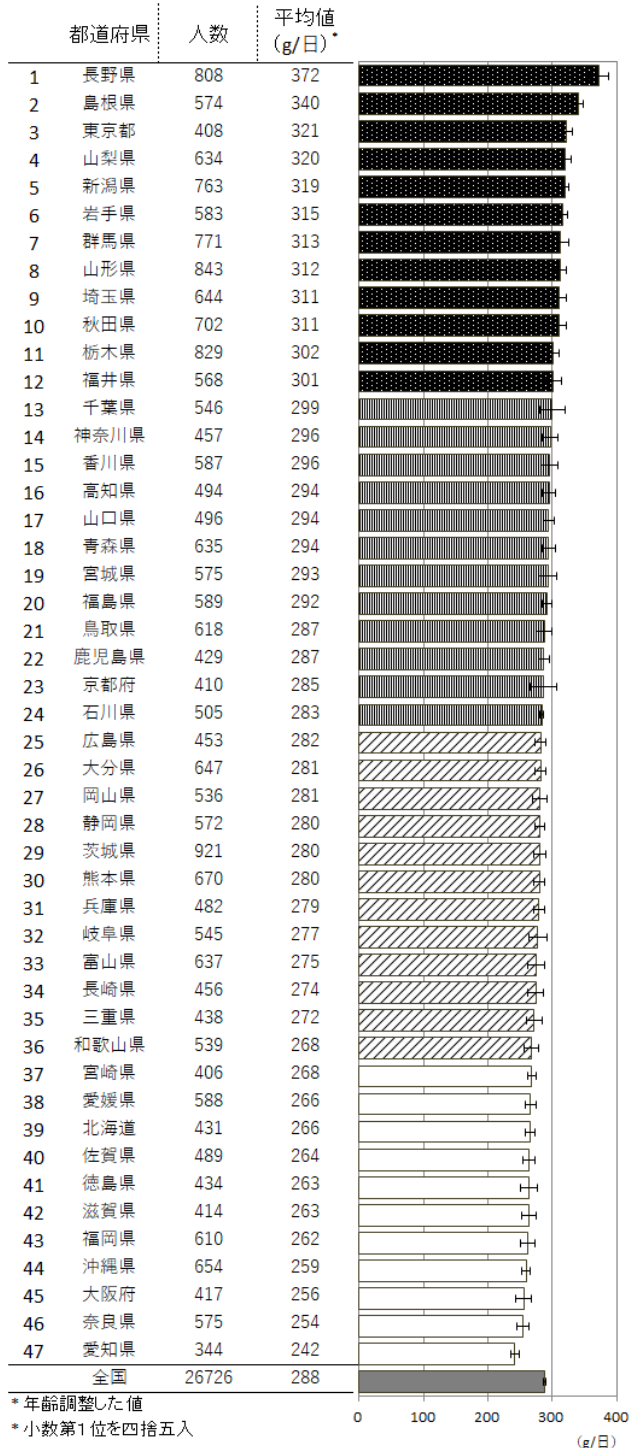
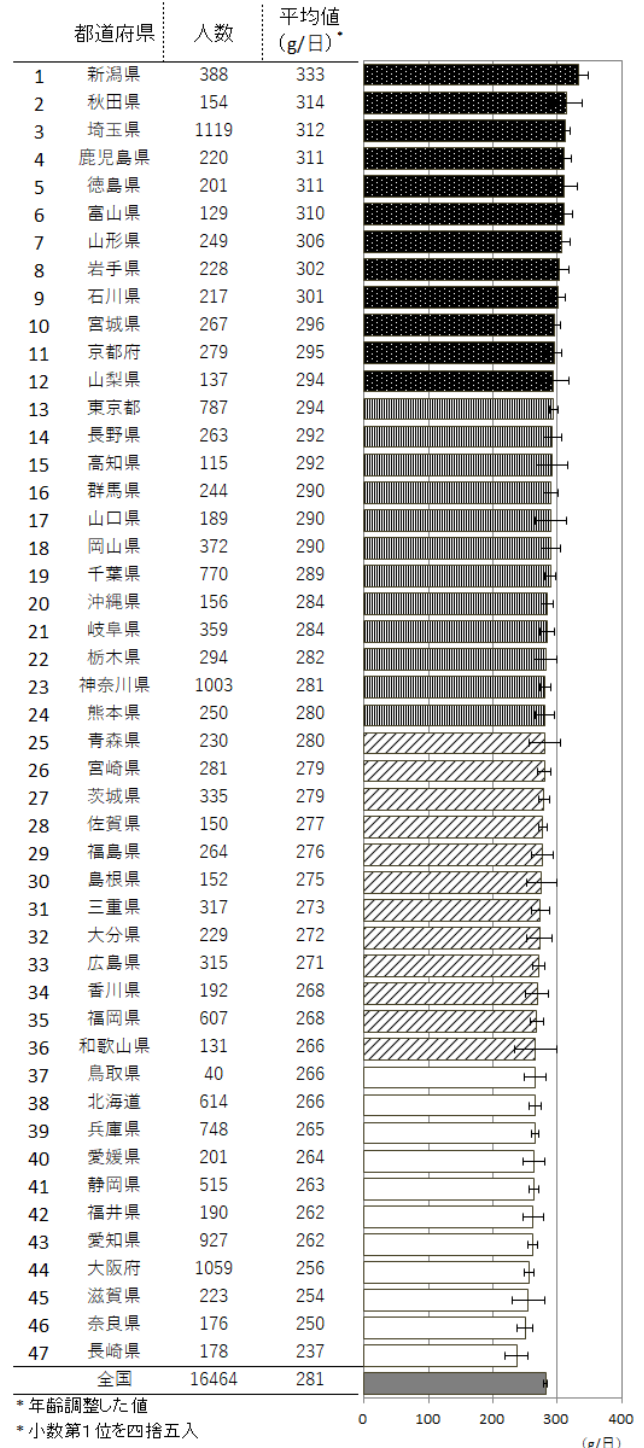


図 4-2. 野菜摂取量の年齢調整平均値(平成 29-令和元年、20 歳以上・男女計)



※平成 24 年の集計対象者の平均年齢 56 歳を用いて年齢調整を行った。図の横軸誤差範囲は、平均値の 95%信頼区間を示した。都道府県別データを高い方から低い方に4区分に分け、色分けをして示した。なお、差異がみられる小数点以下の桁数まで算出し、値が高い方から並べた。

4-2. 野菜摂取量の推移

平成 24 年と比べて、平成 29～令和元年の年齢調整平均値は、平成 24 年に最も摂取量が多かった数県を除き大きな変化はなく、改善傾向は見られなかった。補正値は高順位の都道府県ほど大きく減少する傾向にあった。都道府県差の標準偏差は平成 24 年で 21.78、平成 29～令和元年で 11.39 であり、2 時点間で有意に変化した(P=0.02)。

図 4-3. 野菜摂取量の年齢調整平均値の推移(20 歳以上・男女計)

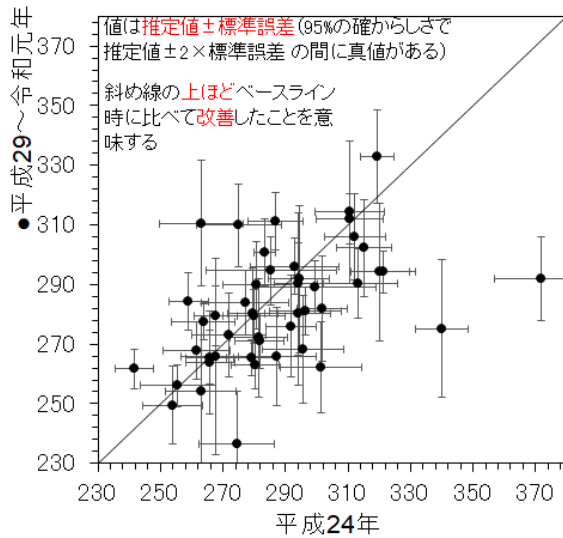
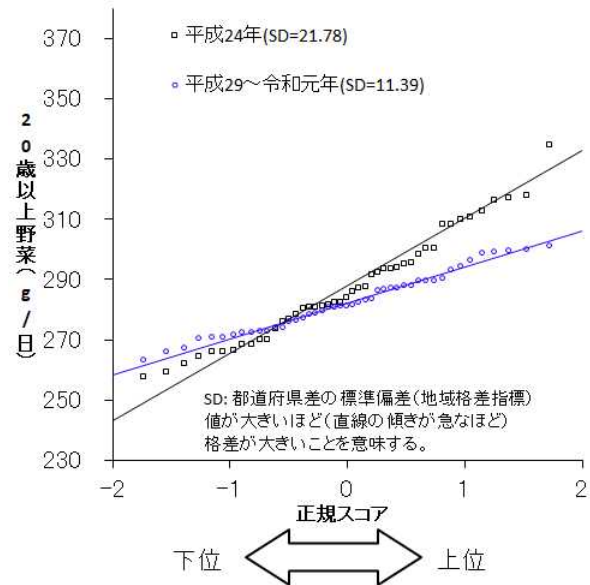


図 4-4. 野菜摂取量の分布の推移(20 歳以上・男女計)

※誤差分散を補正した値であり年齢調整平均値とは異なる。



5-1. 年齢調整喫煙率

各都道府県の年齢調整喫煙率は、図 5-1、5-2 の通り。

図 5-1. 年齢調整喫煙率(平成 24 年、20 歳以上・男女計)

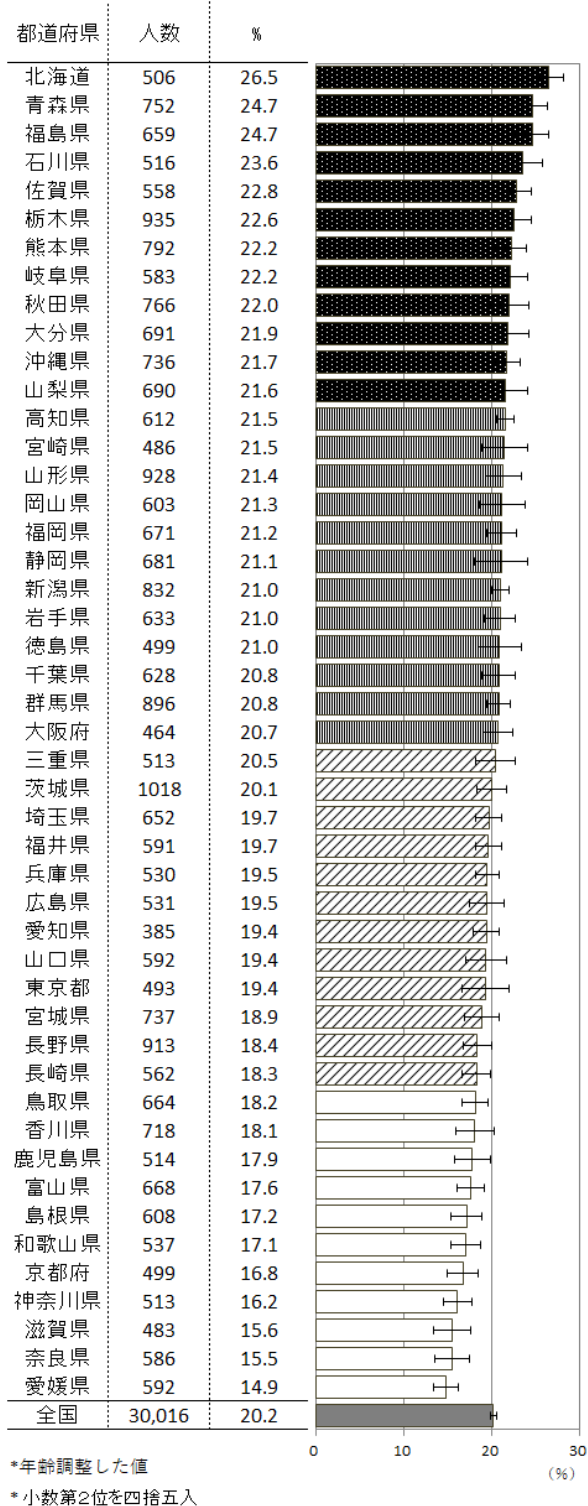
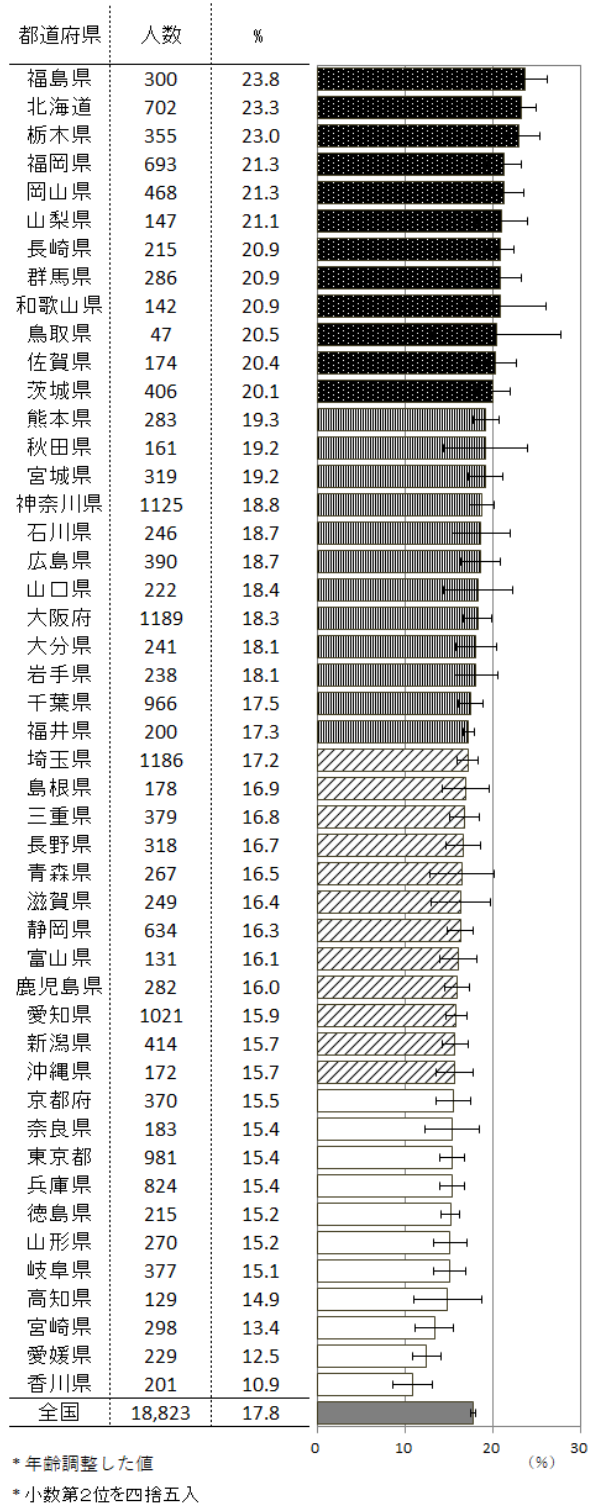


図 5-2. 年齢調整喫煙率(平成 29-令和元年、20 歳以上・男女計)



※平成 24 年の集計対象者の平均年齢 56 歳を用いて年齢調整を行った。図の横軸誤差範囲は、割合の 95%信頼区間を示した。都道府県別データを高い方から低い方に 4 区分に分け、色分けをして示した。なお、差異がみられる小数点以下の桁数まで算出し、値が高い方から並べた。

5-2. 喫煙率の推移

平成 24 年と比べて、平成 29～令和元年の年齢調整喫煙率は、全国的に減少しており、改善傾向が見られた。都道府県差の標準偏差は平成 24 年で 1.57、平成 29～令和元年で 1.02 であり、2時点間で有意な変化はなかった(P=0.25)。

図 5-3. 年齢調整喫煙率の推移(20 歳以上・男女計)

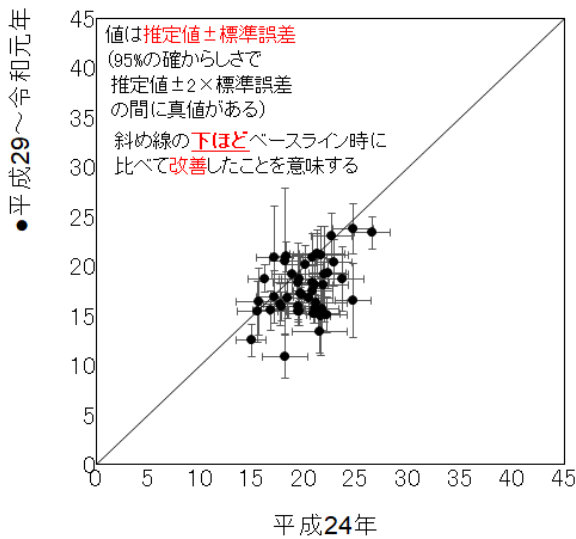
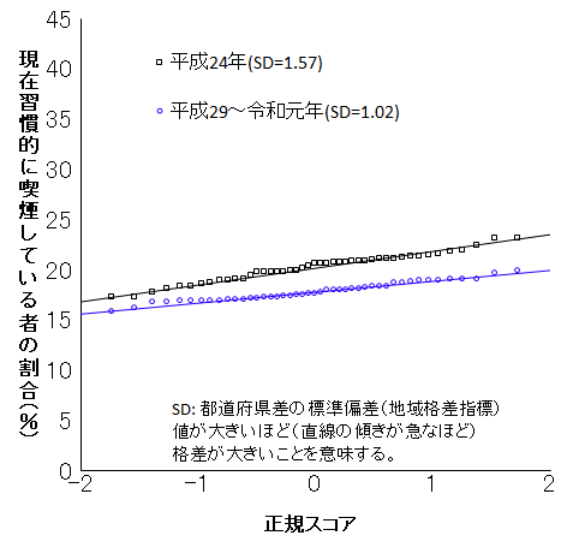


図 5-4. 年齢調整喫煙率の分布の推移(20 歳以上・男女計)

※誤差分散を補正した値であり年齢調整平均値とは異なる。



世帯収入と生活習慣等に関する状況

1. 集計の目的

健康日本 21(第二次)の10の目標項目について、健康日本 21(第二次)の実施期間に世帯収入カテゴリ間の生活習慣等の状況の違いが年次によって変化したかどうかの評価をした。評価した項目は、エネルギー調整済み食塩摂取量の平均値、野菜摂取量の平均値、果物摂取量が100g未満の者の割合、運動習慣のある者の割合、歩数の平均値、現在習慣的に喫煙している者の割合、生活習慣病リスクを高める量を飲酒している者の割合、睡眠による休養が十分にとれていない者の割合、肥満の者の割合、やせの者の割合である。

2. 集計の対象年度、対象者

国民健康・栄養調査の生活習慣調査において、平成 22 年、平成 23 年、平成 26 年、平成 30 年に世帯収入を調査した。今回の集計では、健康日本 21(第二次)のベースライン(平成 22 年)と、平成 26 年、平成 30 年データを用いた。

世帯主または世帯の代表者が、過去1年間の年間世帯収入について回答した。平成 22 年と平成 26 年は、「200 万円未満」「200 万円以上～600 万円未満」「600 万円以上」「わからない」の4択から、平成 30 年は、「200 万円未満」「200 万円以上 400 万円未満」「400 万円以上 600 万円未満」「600 万円以上」「わからない」の5択から回答した。

世帯収入の質問に対して、「わからない」以外の回答をした世帯における 20 歳以上の世帯員であって、性別・年齢の情報が明らかな者を集計対象とした。また目標項目ごとに、各項目の情報が得られなかったものを除外した。

3. 集計方法

集計対象者を「200 万円未満」「200 万円以上～600 万円未満」「600 万円以上」のいずれかの所得群に分類し、性別・年度別・所得群別に各評価項目の調整平均値又は調整割合を算出した。値は、「平成 22 年国勢調査による基準人口の年齢区分(20-29 歳、30-39 歳、40-49 歳、50-59 歳、60-69 歳、70 歳以上の6区分)」と世帯員数(連続値)で調整した。平成 30 年調査では世帯主または世帯の代表者が世帯員数の質問に回答しているが、平成 22 年と平成 26 年は、世帯人数を調査していない。そのため、全ての調査年で世帯あたりの国民健康・栄養調査参加人数を世帯員数として用いた。

また調査年によって調整平均値又は調整割合に違いがあるかを評価するために、調査年をカテゴリ変数とした重回帰分析によってp値(年次間の一様性)を算出し、調整平均値又は調整割合の線形経年変化の傾向を評価するために、調査年を連続変数とした重回帰分析によってp値(年次間の傾向性)を算出して検定を行った。

世帯収入カテゴリ間の違いが年次により縮小または拡大したかどうかは、調査年カテゴリ、収入カテゴリ、調査年カテゴリ×収入カテゴリの交互作用、年齢カテゴリ、世帯員数を含むモデルを用いて、調査年カテゴリ×収入カテゴリの交互作用のp値(以下、交互作用p値)に基づき検定した。

4. 結果

4-1. 男性における結果(表1・図1)

- ① エネルギー調整済み食塩摂取量の調整平均値は、所得に関わらず有意に減少していたため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.72)。
- ② 野菜の摂取量の調整平均値は、所得に関わらず、平成 22 年、平成 26 年、平成 30 年の間に有意な違いがあったが、線形経年変化はみられず、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.26)。
- ③ 果物摂取量 100g 未満の者の調整割合は、所得に関わらず、有意に増加していたため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.71)。
- ④ 運動習慣のある者の調整割合は、所得に関わらず、有意に減少していたため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.52)。
- ⑤ 歩数の調整平均値は、所得に関わらず、有意な増減はなかったため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.07)。
- ⑥ 現在習慣的に喫煙している者の調整割合は、所得に関わらず、有意な増減はなかったため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.47)。
- ⑦ 生活習慣病リスクを高める飲酒をしている者の調整割合は、所得に関わらず、有意な増減はなかったため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.11)。
- ⑧ 睡眠による休養が十分にとれていない者の調整割合は、所得に関わらず、平成 22 年と平成 26 年で有意な違いはなかったため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.73)。
- ⑨ 肥満の者の調整割合は、所得に関わらず、平成 22 年、平成 26 年、平成 30 年の間に有意な違いがあったが、線形経年変化はみられず、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.60)。
- ⑩ やせの者の調整割合は、所得に関わらず、有意な増減はなかったため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.83)。

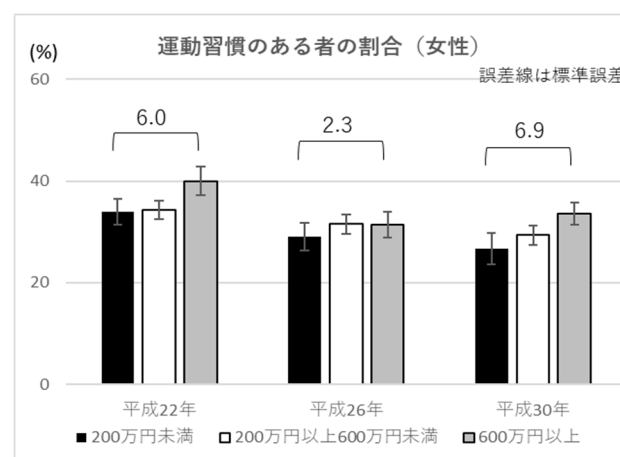
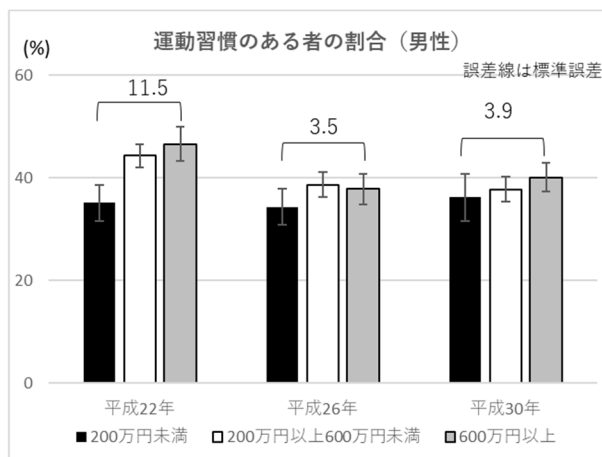
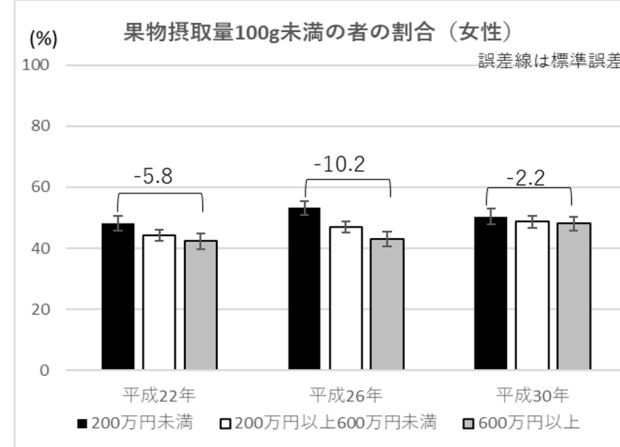
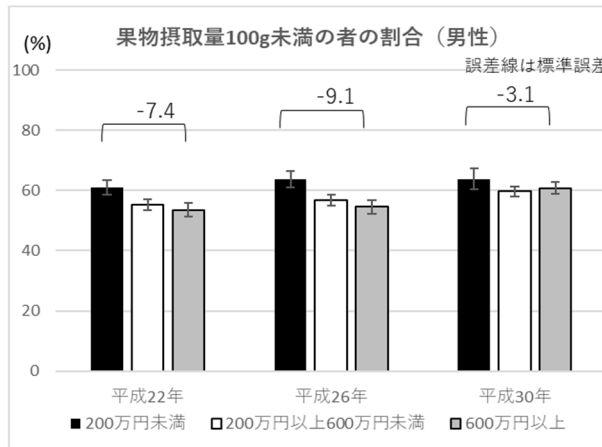
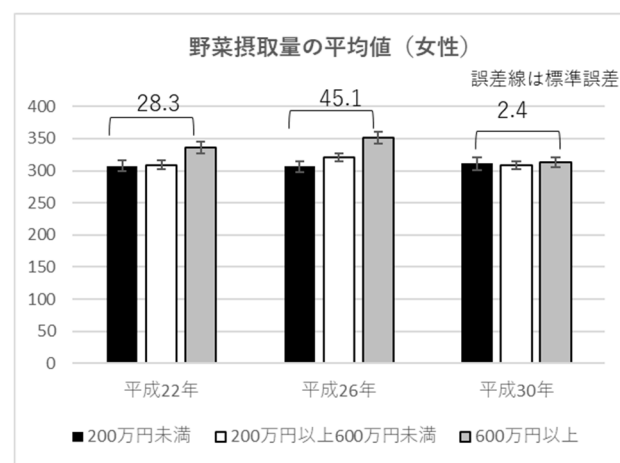
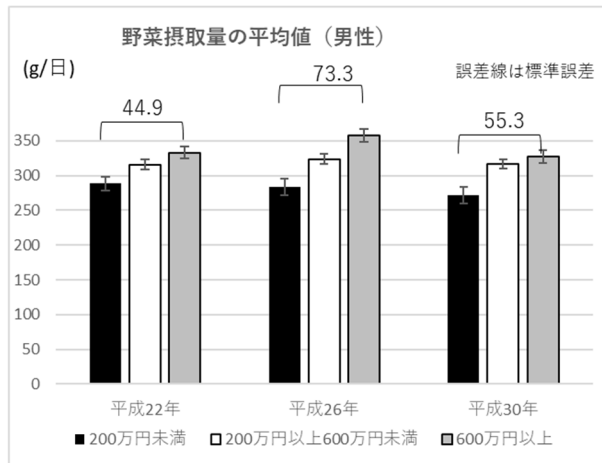
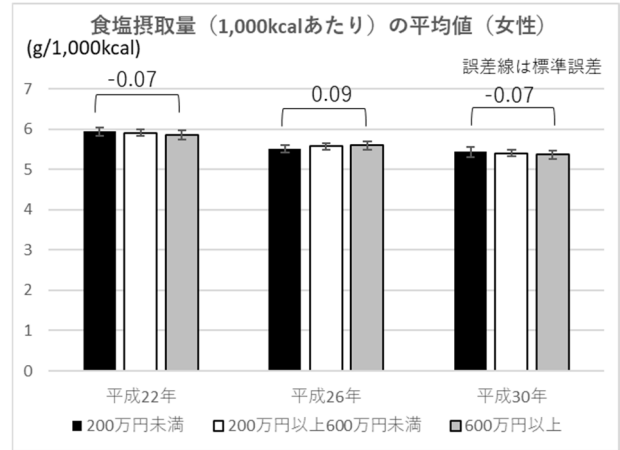
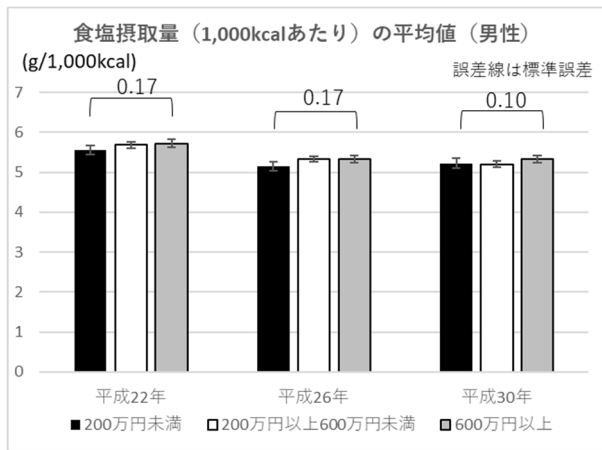
4-2. 女性における結果(表1・図1)

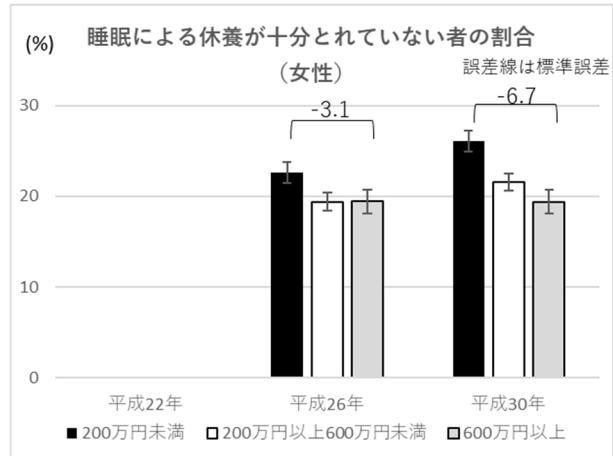
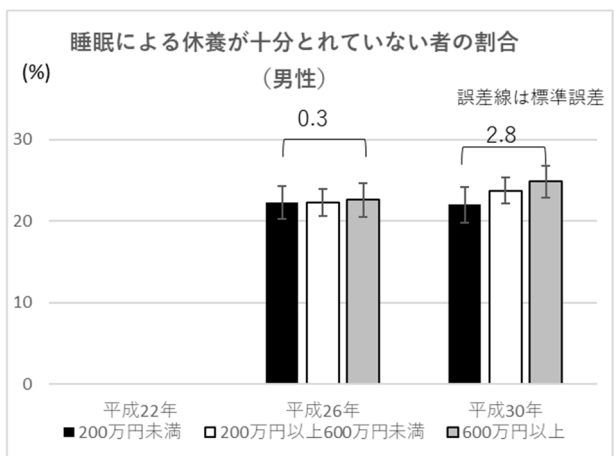
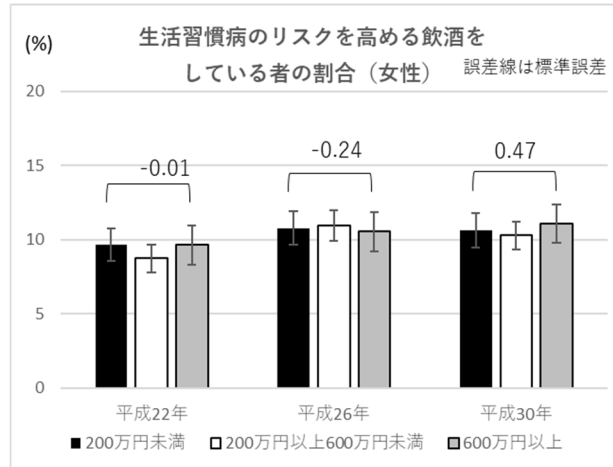
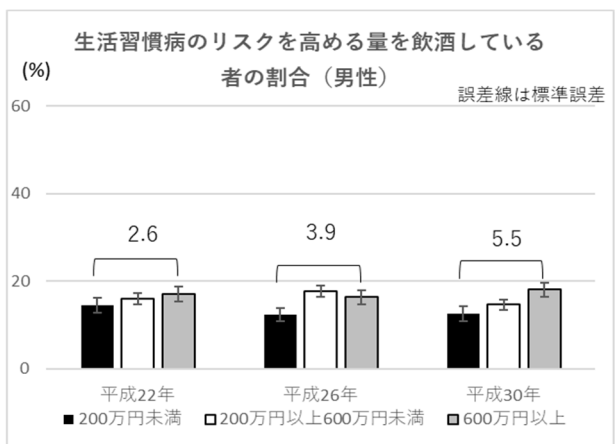
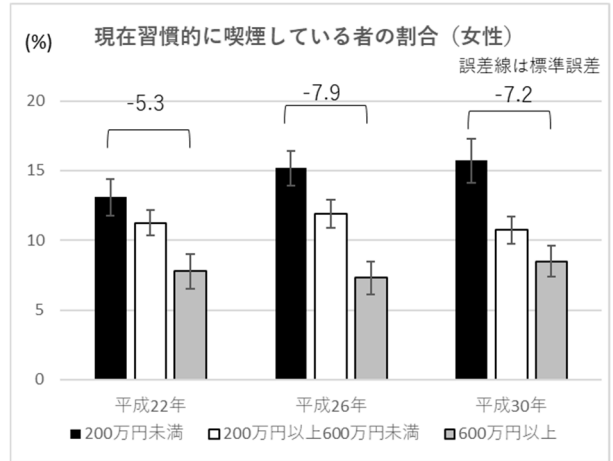
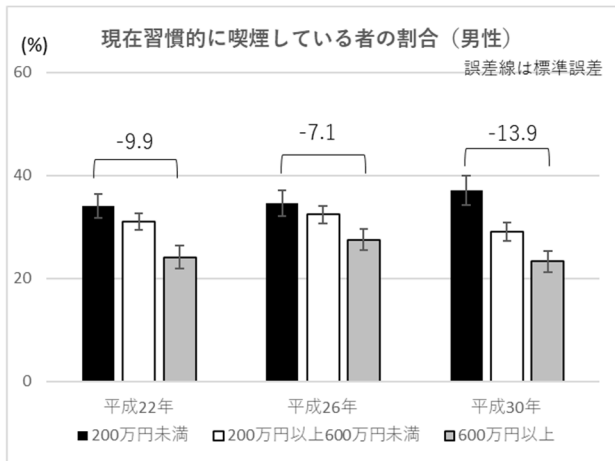
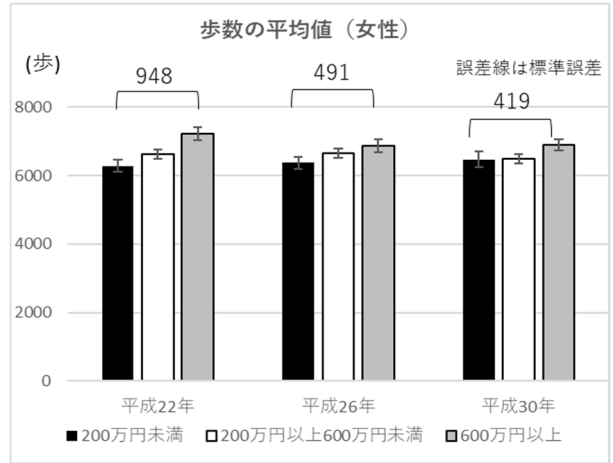
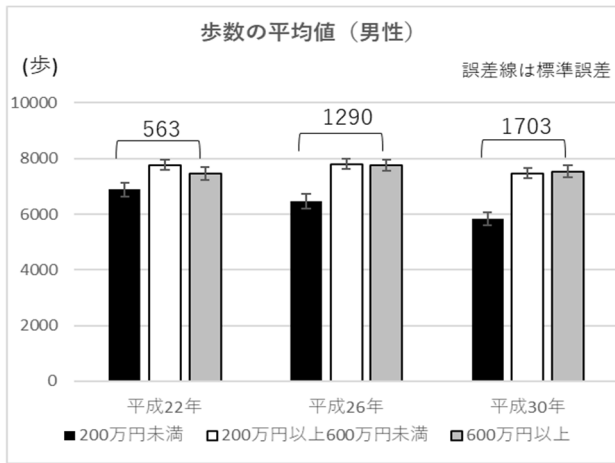
- ① エネルギー調整済み食塩摂取量の調整平均値は、所得に関わらず、有意に減少していたため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.85)。
- ② 野菜摂取量の調整平均値は、平成 22 年、平成 26 年、平成 30 年の間に有意な違いがあった。平成 26 年は 200 万円未満で 306.7g/日、600 万円以上で 351.9g/日であり 45.1g/日の差があったが、平成 30 年は 200 万円未満で 310.8g/日、600 万円以上で 313.2g/日で 2.4g/日の差があった。600 万円以上で減少したため、収入カテゴリ間の違いとしては有意に小さくなった(交互作用p値=0.03)。
- ③ 果物摂取量 100g 未満の者の調整割合は、所得に関わらず、有意に増加していたため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.37)。
- ④ 運動習慣のある者の調整割合は、所得に関わらず、有意に減少していたため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.35)。

- ⑤ 歩数の調整平均値は、所得に関わらず、有意な増減はなかったため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.24)。
- ⑥ 現在習慣的に喫煙している者の調整割合は、所得に関わらず、有意な増減はなかったため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.34)。
- ⑦ 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の調整割合は、所得に関わらず、有意に増加していたため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.91)。
- ⑧ 睡眠による休養が十分にとれていない者の調整割合は、所得に関わらず、平成 22 年と平成 26 年で有意な違いはなかったため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.48)。
- ⑨ 肥満の者の調整割合は、平成 22 年、平成 26 年、平成 30 年の間に有意な増減がなかった。平成 22 年は 200 万円未満で 22.3%、600 万円以上で 11.5%であり-10.8%の差があったが、平成 30 年は 200 万円未満で 16.8%、600 万円以上で 15.2%であり-1.6%の差があった。200 万円未満で減少したものの 600 万円以上では増加したため、収入カテゴリ間の違いとしては有意に小さくなった(交互作用p値=0.01)。
- ⑩ やせの者の調整割合は、所得に関わらず、有意な増減はなかったため、収入カテゴリ間の違いに有意な変化は認められなかった(交互作用p値=0.23)。

※本集計は、「健康日本 21(第二次)分析評価事業」(受託者:国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所)において実施

図 1. 健康日本 21(第二次)の実施期間における世帯収入カテゴリ間の生活習慣等の状況の違い





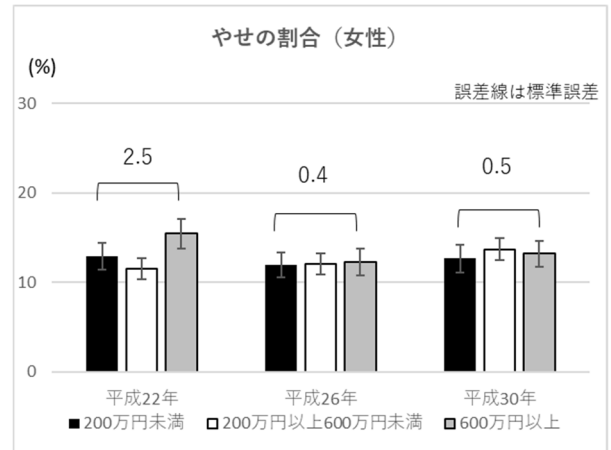
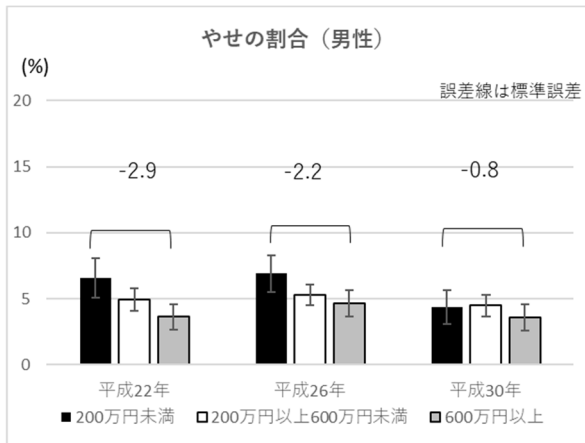
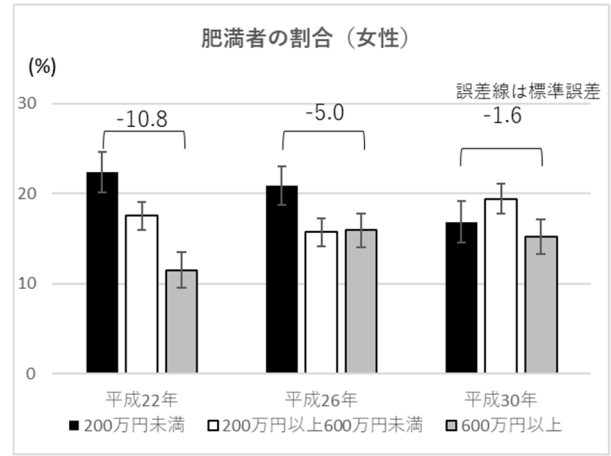
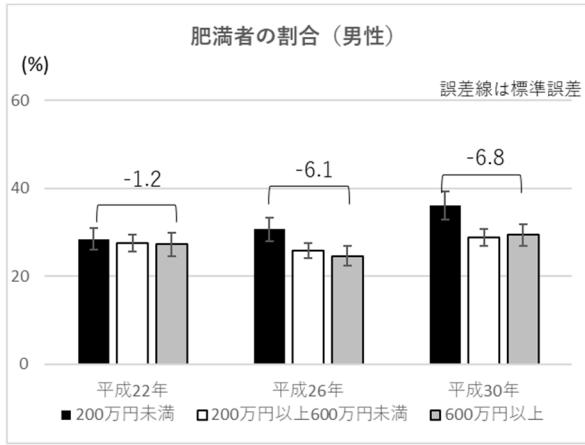


表 1. 健康日本 21(第二次)の実施期間における世帯収入カテゴリ間の生活習慣等の状況の違い^{注1~3)}

	200 万円未満			200 万円以上 600 万円未満			600 万円以上			調査年と収入の 交互作用の p 値 (群間の差の経年変化) ^{注4)}
	人数	割合又は 平均値	標準 誤差	人数	割合又は 平均値	標準 誤差	人数	割合又は 平均値	標準 誤差	
男性										
エネルギー調整済み食塩摂取量の平均値(g/1000kcal)										0.72
平成 22 年	455	5.55	0.11	1,716	5.68	0.08	755	5.72	0.10	
平成 26 年	423	5.16	0.11	1,623	5.33	0.07	758	5.32	0.09	
平成 30 年	283	5.23	0.13	1,259	5.20	0.08	828	5.32	0.09	
p 値(年次間の一様性)					<0.0001					
p 値(年次間のトレンド)					<0.0001					
野菜摂取量の平均値										0.26
平成 22 年	455	288.2	10.1	1,716	315.8	6.8	755	333.1	8.2	
平成 26 年	423	283.8	11.8	1,623	323.6	7.5	758	357.0	9.4	
平成 30 年	283	271.6	12.0	1,259	316.1	6.8	828	327.4	8.8	
p 値(年次間の一様性)					0.03					
p 値(年次間のトレンド)					0.51					
果物摂取量 100g 未満の者の割合										0.71
平成 22 年	455	60.9	2.4	1,716	55.2	1.7	755	53.5	2.2	
平成 26 年	423	63.7	2.6	1,623	56.7	1.8	758	54.6	2.3	
平成 30 年	283	63.8	3.4	1,259	59.7	1.7	828	60.8	2.0	
p 値(年次間の一様性)					0.0004					
p 値(年次間のトレンド)					0.0001					
運動習慣のある者の割合										0.52
平成 22 年	302	35.1	3.5	1,050	44.3	2.3	381	46.6	3.4	
平成 26 年	267	34.3	3.5	973	38.7	2.4	393	37.8	3.0	
平成 30 年	180	36.2	4.7	731	37.8	2.4	408	40.1	2.8	
p 値(年次間の一様性)					0.009					
p 値(年次間のトレンド)					0.008					
歩数の平均値										0.07
平成 22 年	403	6,892	250	1631	7,776	184	721	7,455	239	
平成 26 年	383	6,469	254	1537	7,807	171	743	7,759	208	
平成 30 年	255	5,830	229	1189	7,476	179	806	7,533	217	
p 値(年次間の一様性)					0.05					
p 値(年次間のトレンド)					0.06					

現在習慣的に喫煙している者の割合										0.47
平成 22 年	498	34.1	2.4	1,897	31.0	1.7	816	24.2	2.3	
平成 26 年	498	34.6	2.5	1,853	32.4	1.7	867	27.5	2.0	
平成 30 年	340	37.1	2.8	1,441	29.1	1.7	934	23.3	2.1	
p値(年次間の一様性)					0.09					
p値(年次間のトレンド)					0.52					
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合										0.11
平成 22 年	497	14.5	1.6	1,898	16.0	1.3	816	17.1	1.7	
平成 26 年	502	12.4	1.6	1,853	17.6	1.3	867	16.3	1.7	
平成 30 年	341	12.6	1.7	1,442	14.6	1.2	936	18.1	1.6	
p値(年次間の一様性)					0.54					
p値(年次間のトレンド)					0.50					
睡眠による休養が十分とれていない者の割合										0.73
平成 22 年										
平成 26 年	502	22.3	2.0	1,855	22.3	1.6	867	22.6	2.1	
平成 30 年	341	22.0	2.2	1,443	23.7	1.6	936	24.8	2.0	
p値(年次間の一様性)					0.19					
肥満者の割合										0.60
平成 22 年	380	28.5	2.5	1,438	27.6	1.9	600	27.3	2.7	
平成 26 年	383	30.7	2.7	1,457	25.9	1.7	659	24.6	2.3	
平成 30 年	262	36.2	3.2	1,160	28.9	1.9	735	29.4	2.4	
p値(年次間の一様性)					0.02					
p値(年次間のトレンド)					0.11					
やせの者の割合										0.83
平成 22 年	380	6.6	1.5	1,438	4.9	0.9	600	3.6	1.0	
平成 26 年	383	6.9	1.4	1,457	5.3	0.8	659	4.7	1.0	
平成 30 年	262	4.4	1.3	1,160	4.5	0.8	735	3.6	1.0	
p値(年次間の一様性)					0.19					
p値(年次間のトレンド)					0.38					
女性										
エネルギー調整済み食塩摂取量の平均値(g/1000kcal)										0.85
平成 22 年	678	5.93	0.10	1,880	5.90	0.08	829	5.86	0.12	
平成 26 年	620	5.50	0.10	1,776	5.57	0.08	842	5.59	0.10	
平成 30 年	455	5.43	0.12	1,389	5.40	0.08	906	5.36	0.10	
p値(年次間の一様性)					<.0001					
p値(年次間のトレンド)					<.0001					

野菜摂取量の平均値										0.03
平成 22 年	678	307.7	8.5	1,880	309.2	6.6	829	336.0	8.5	
平成 26 年	620	306.7	8.4	1,776	320.9	6.4	842	351.9	9.0	
平成 30 年	455	310.8	10.6	1,389	308.8	6.4	906	313.2	8.2	
p値(年次間の一様性)					0.005					
p値(年次間のトレンド)					0.27					
果物摂取量 100g 未満の者の割合										0.37
平成 22 年	678	48.1	2.3	1,880	44.1	1.8	829	42.3	2.5	
平成 26 年	620	53.2	2.3	1,776	46.9	1.8	842	43.0	2.3	
平成 30 年	455	50.3	2.6	1,389	48.6	1.9	906	48.1	2.3	
p値(年次間の一様性)					0.004					
p値(年次間のトレンド)					0.0009					
運動習慣のある者の割合										0.35
平成 22 年	492	34.0	2.6	1,315	34.3	1.8	505	39.9	2.8	
平成 26 年	417	29.1	2.7	1,146	31.5	1.9	546	31.4	2.5	
平成 30 年	327	26.7	3.0	917	29.4	1.9	563	33.6	2.2	
p値(年次間の一様性)					0.001					
p値(年次間のトレンド)					0.0004					
歩数の平均値										0.24
平成 22 年	608	6,276	181	1813	6,615	137	800	7,225	187	
平成 26 年	570	6,371	175	1673	6,661	137	813	6,862	191	
平成 30 年	398	6,471	227	1305	6,480	137	874	6,890	163	
p値(年次間の一様性)					0.51					
p値(年次間のトレンド)					0.26					
現在習慣的に喫煙している者の割合										0.34
平成 22 年	719	13.1	1.3	2,034	11.2	0.9	878	7.8	1.2	
平成 26 年	703	15.2	1.3	1,996	11.9	1.0	935	7.3	1.2	
平成 30 年	532	15.7	1.6	1,573	10.7	1.0	1,008	8.5	1.1	
p値(年次間の一様性)					0.64					
p値(年次間のトレンド)					0.51					
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合										0.91
平成 22 年	719	9.6	1.1	2,037	8.7	0.9	877	9.6	1.3	
平成 26 年	705	10.8	1.1	1,996	10.9	1.0	936	10.5	1.3	
平成 30 年	531	10.6	1.2	1,572	10.3	0.9	1,008	11.1	1.3	
p値(年次間の一様性)					0.02					
p値(年次間のトレンド)					0.03					

睡眠による休養が十分とれていない者の割合										0.48
平成 22 年										
平成 26 年	705	22.6	1.7	1,997	19.4	1.6	937	19.4	2.1	
平成 30 年	532	26.1	1.9	1,570	21.5	1.5	1,006	19.4	2.0	
p値(年次間の一様性)					0.08					
肥満者の割合										0.01
平成 22 年	587	22.3	2.3	1,634	17.5	1.6	686	11.5	1.9	
平成 26 年	576	20.9	2.2	1,565	15.7	1.6	750	15.9	1.9	
平成 30 年	434	16.8	2.3	1,241	19.4	1.6	809	15.2	1.9	
p値(年次間の一様性)					0.65					
p値(年次間のトレンド)					0.49					
やせの者の割合										0.23
平成 22 年	587	12.9	1.5	1,634	11.5	1.2	686	15.5	1.7	
平成 26 年	576	11.9	1.4	1,565	12.0	1.2	750	12.3	1.5	
平成 30 年	434	12.7	1.6	1,241	13.7	1.2	809	13.2	1.5	
p値(年次間の一様性)					0.39					
p値(年次間のトレンド)					0.64					

注1)世帯主又は世帯の代表者が、生活習慣調査票の世帯員数についての質問(平成30年のみ、問12)と、世帯収入についての質問(平成22年間29、平成26年間10、平成30年間13)に回答した世帯における20歳以上の世帯員を集計対象とした。なお、同一世帯で複数の世帯員が世帯員数(平成30年のみ)または世帯収入に関する質問に回答した世帯、及び世帯収入の質問に「わからない」と回答した世帯は集計から除外した。

注2)世帯員数は、世帯あたりの調査参加人数を世帯員数として代用し、世帯員全員に当てはめた。

注3)推定値は、「平成22年国勢調査による基準人口(20-29歳、30-39歳、40-49歳、50-59歳、60-69歳、70歳以上の6区分)」と世帯員数(連続値)での調整値。

注4)3時点の格差が縮まったかは、調査年(平成22年、平成26年、平成30年のダミー変数)と、収入(「200万円未満」「200万円以上～600万円未満」「600万円以上」のダミー変数)の相互作用項の有意性に基づき判定した。

※果物摂取量は、ジャム、果汁・果汁飲料を除く。 ※「運動習慣のある者の割合」とは、運動習慣のある者(1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者)。 ※「現在習慣的に喫煙している者」とは、喫煙の状況が「毎日吸う」又は「時々吸う」と回答した者。 ※「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者」とは、1日当たりの純アルコール摂取量が男性で40g以上、女性20g以上の者とし、以下の方法で算出した。①男性:「毎日×2合以上」+「週5～6日×2合以上」+「週3～4日×3合以上」+「週1～2日×5合以上」+「月1～3日×5合以上」②女性:「毎日×1合以上」+「週5～6日×1合以上」+「週3～4日×1合以上」+「週1～2日×3合以上」+「月1～3日×5合以上」 ※「睡眠で休養が充分とれていない者」とは、睡眠で休養が「あまりとれていない」又は「まったくとれていない」と回答した者。 ※「肥満者」とは、BMI 25.0以上の者。「やせの者」とは、BMI 18.5未満の者。